

燃料電池車 レスキュー時の取り扱い

CLARITY **FUEL CELL**



平成28年3月

改訂1：平成28年10月

本田技研工業株式会社

※変化点は青字で記載しております

はじめに

本書は、燃料電池車「CLARITY FUEL CELL」のレスキュー活動をする際に注意していただきたい事項を説明しています。
安全に作業していただくためにも、本書をよくお読みいただき注意事項を遵守してください。

CLARITY FUEL CELLは、水素を燃料として走行する燃料電池車です。

燃料電池スタックで水素と空気中の酸素の化学反応により発電された電気を使って、モータで走行します。

また、発電した電気を一時的に蓄えるリチウムイオン バッテリーを搭載しており、加速時には出力をアシストし、減速時には、回生電力を充電する事で、エネルギーを効率よく使います。走行中に排出されるのは、水や水蒸気だけで、CO₂やNO_xなどの排気ガスを一切出さない環境にやさしい車です。

※改訂1：準備品、リチウムイオン バッテリー液漏れ時の処置、補機類の事前処理、火災時の注意と処置、高電圧システムの遮断手順、車両切断時の注意と処置、車両運搬要領を改訂

本田技研工業株式会社

安全に関する表示について

以下のシンボル マークのある項目は、安全に関して特に重要な事項を説明しています。
必ずお読みください。

 危険	指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの
 警告	指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの
 注意	指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの



※車両の高電圧部位には左図のような高電圧警告マークが貼付されています。

目 次

1. CLARITY FUEL CELLの見分け方	2
2. 燃料電池車について	3
■高電圧部位	3
■高電圧の隔離	4
■高電圧の遮断	4
■リチウムイオン バッテリ	4
■燃料電池システム	5
■燃料電池スタック	5
■水素の特性	6
■水素タンク	6
■水素充填口/水素配管	7
■水素識別ラベル	7
■水素供給システム	7
■エアポンプ/エアポンプPDU	7
■水素安全の基本思想	8
■水素安全システム	8
■PCU	9
■空調システム	9
■FC昇圧コンバータ	9
■外部給電システム(装備車のみ)	10
■リチウムイオン バッテリ液漏れ時の処置	10
3. レスキュー作業時の注意	11
■処置概要	11
■補機類の事前処理	11
■車両の固定および安定を図る際は	11
■乗員を車室内から救助する際は	12
■火災時の注意と処置	13
■水没時の注意と処置	13
■リチウムイオン バッテリ破損時の注意と処置	14
■高電圧システムの遮断方法	15
■車両切断時の注意と処置	18
4. 事故車運搬要領	20
■車両データ	20
■車両運搬要領	20
■タイダウン スロットの位置	21
■牽引フックの位置	21

1. CLARITY FUEL CELLの見分け方

以下にCLARITY FUEL CELLの外観および特徴を紹介します。事故車両が該当車種であれば、本書に記載の注意事項を遵守してレスキュー作業にあたってください。

外 観

フロント フェンダおよび後部にエンブレムがあります。



内 装



CLARITY FUEL CELLには
水素用のフューエルリッド オープナーがあります。

型式による識別

運転席側シート脇にて型式およびフレーム ナンバーが確認できます。フレーム ナンバーの前3桁が型式になります。

表示例：ZC4 - XXXXXXX (7桁の数字)

燃料電池車のCLARITY FUEL CELLであることは、最初の3桁の記号「ZC4」で識別できます。



カバーを手前から開くと型式および
フレームナンバーが確認できます

2. 燃料電池車について

CLARITY FUEL CELLの高電圧システムは、最大500Vの高電圧を使用しています。
そのため、レスキュー活動にあたっては、高電圧に対する注意と対応が必要です。

⚠ 警告

- ・ オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧カバーが破損し配線や端子などが露出していた場合、それらの露出部分には絶対に触れないでください。また、露出した配線や端子が高電圧部分かどうか不明な場合も、触れないでください。重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- ・ やむを得ず高電圧ケーブルや高電圧部品の露出部分に触れる場合または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕を着用してください。
- ・ 事故処理後の車両保管時など関係者が車から離れる場合、他の人が燃料電池車と知らずに不用意に触れることが無いように、車両には「高電圧作業中触るな」「高圧ガス作業中触るな」の標示をしてください。（本書巻末の注意標示をコピーしてご活用ください）

【準備品】 CLARITY FUEL CELLのレスキュー活動にあたっては、あらかじめ以下の物を準備しておいてください。

- ①絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕
- ②ABC消火器
- ③耐溶剤用保護具〔ガスマスク（有機ガス用）、ゴム手袋（耐薬品用）〕
- ④ウエス、古タオル

■高電圧部位

CLARITY FUEL CELLの高電圧部位は、以下の通りです。

- ・ イラスト中のオレンジの部分が高電圧部位を示します。
- ・ 高電圧ケーブルは、オレンジ色なので識別できます。



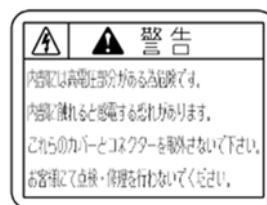
⚠ 警告

フロア下側に高電圧ケーブルが配線されているため、車両の吊り上げやジャッキアップ時、高電圧ケーブルに物が当たらないようにしてください。
高電圧ケーブルが破損または切断された場合、配線が露出し高電圧による重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。

■高電圧の隔離

CLARITY FUEL CELLは、高電圧が隔離されています。

- ・高電圧回路は、プラス（+）／マイナス（-）の両極とも車体と絶縁されています。
- ・高電圧機器、高電圧配線には、ケースやカバーを設け、高電圧部分の露出をなくしています。
- ・車両前方のモータールーム内の高電圧配線もケーブルカバーにより隔離されています。
- ・高電圧配線はオレンジ色で識別されています。
- ・高電圧部分には注意ラベルを貼付しています。



警告ラベル例

■高電圧の遮断

CLARITY FUEL CELLは、高電圧を遮断できるシステムを備えています。

- ・高電圧回路の遮断は、パワースイッチに連動しています。パワースイッチがOFFになることにより高電圧回路は遮断されます。
- ・衝突によりエアバッグ制御ユニットからの信号があった場合、バッテリーおよび燃料電池システムの制御ユニットは、電流遮断スイッチにより高電圧を遮断します。

■リチウムイオン バッテリー

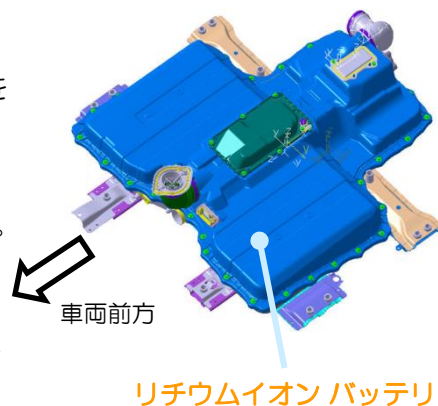
CLARITY FUEL CELLは、12Vの自動車用バッテリーの他に、公称最大電圧346Vのリチウムイオン バッテリー（駆動用電池）を搭載しています。

リチウムイオンバッテリーは、外部からの水浸入を防止する防水ケース内に収められ、車両中央部の床下に格納されています。そのため通常リチウムイオン バッテリー本体は、見えないようになっています。

また、バッテリー電解液もリチウムイオン バッテリー内に密封されていますので、交換・補充は不要です。

万一、リチウムイオン バッテリーが破損しても、電解液が多量に流出するおそれはありません。

液漏れした場合の処置については、10ページをお読みください。



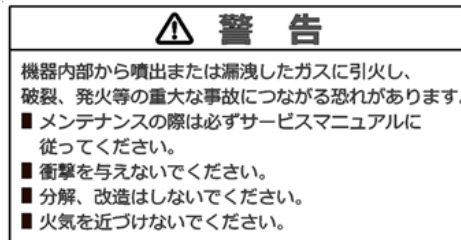
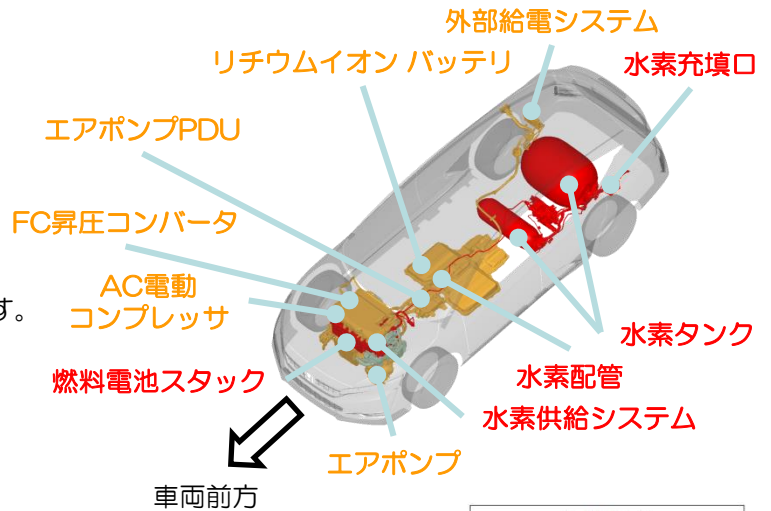
⚠ 危険

- ・車両損傷などで高電圧部品内部の構成部品や高電圧配線の導体が露出していた場合は、絶対に触らないでください。従わないと、死亡または重大な傷害に至ります。
- ・やむを得ず高電圧ケーブルや高電圧部品の露出部分に触れる場合、または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕を着用してください。
- ・リチウムイオンバッテリーの電解液が目に入ったり皮膚に付着した場合は直ちに多量の水で洗浄し、専門医の診断を受けてください。失明や傷害を受ける危険があります。

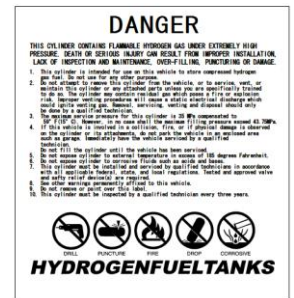
■燃料電池システム

CLARITY FUEL CELLは、発電に水素を使用するため、燃料電池スタック、水素タンク、水素充填口、水素配管、水素供給システムなどの、水素保有部品が搭載されています。**(赤色部)** 水素保有部品などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してあります。

高電圧を使用する部品として、燃料電池スタック、エアポンプ、エアポンプPDU、FC昇圧コンバータなどが搭載されています。**(橙色部)**



燃料電池スタック上面

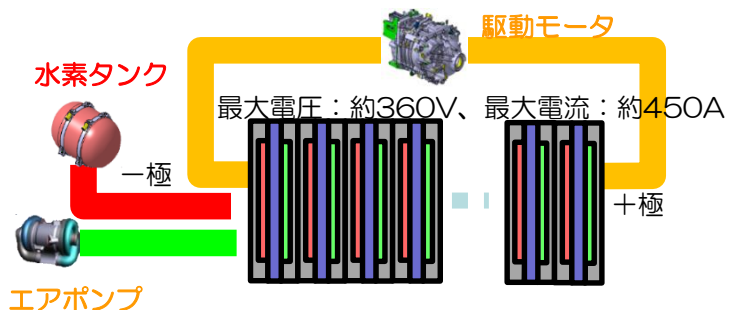
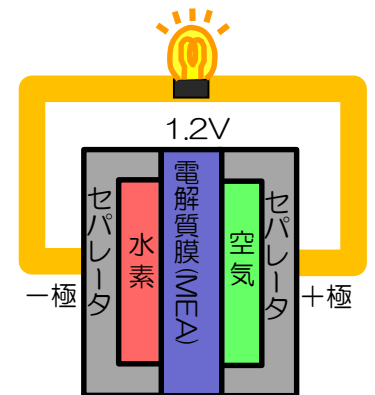


水素タンク表面

■燃料電池スタック

CLARITY FUEL CELLは、水素と空気(酸素)の化学反応によって、電気と水を発生させます。単電池を、直列に連結することで、駆動モータに必要な、高電圧と大電流を発生させます。数百枚の単電池を直列連結された状態を燃料電池スタックと呼びます。

燃料電池スタック



アルミ製のカバーに覆われており
高電圧部に容易に触ることは出来ません。

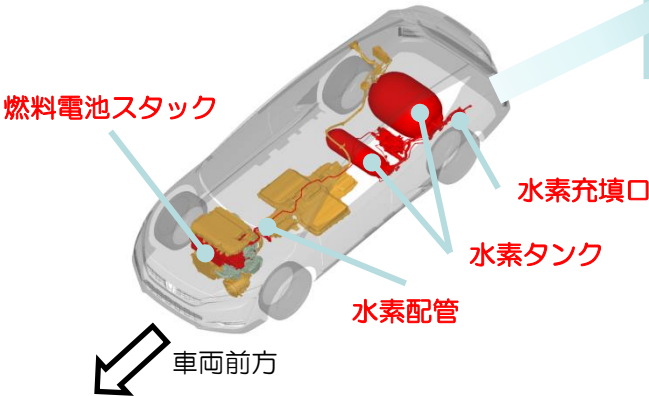
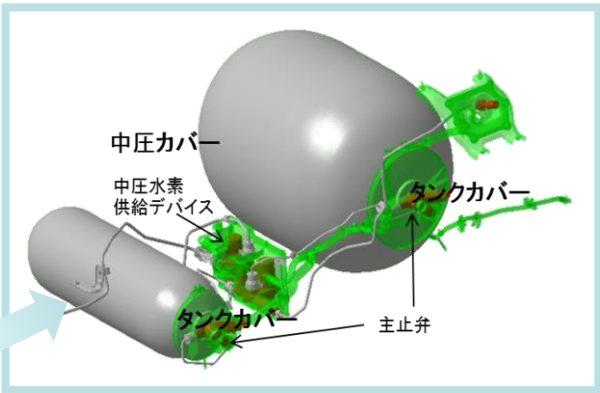
■水素の特性

水素は非毒性の透明無臭ガスです。また、軽い物質なので、空気中ではすぐに上方へ移動し、拡散しやすい特性を持っています。水素の特性を理解して正しく扱えば、危険な燃料ではありません。レスキュー作業にあたる場合は、水素の炎は透明で輻射熱が少ないため発見が困難であることを認識して作業を行ってください。

	ガソリン (液体)	LPG (気体)	水素 (気体)	ポイント
毒性	あり	なし	なし	大量に吸うと酸欠のおそれあり
色	オレンジ	なし	なし	漏れセンサで検知
臭い	あり	あり	なし	
軽さ	空気より重い	空気より重い	空気より軽い	素早く薄まる
溜まりやすさ	窪みなどに溜まりやすい	隙間から拡散する	隙間から拡散する	
着火しやすさ	—	ガソリンと同程度	ガソリンより着火しやすい	着火しやすく、炎の発見が困難だが、消火は容易
炎の発見しやすさ	容易 オレンジ 輻射熱大	やや困難 青色 輻射熱中	困難 透明 輻射熱少	
火を消すには	消火器での消火が必要	・供給を止める ・水で消火可	・供給を止める ・水で消火可	

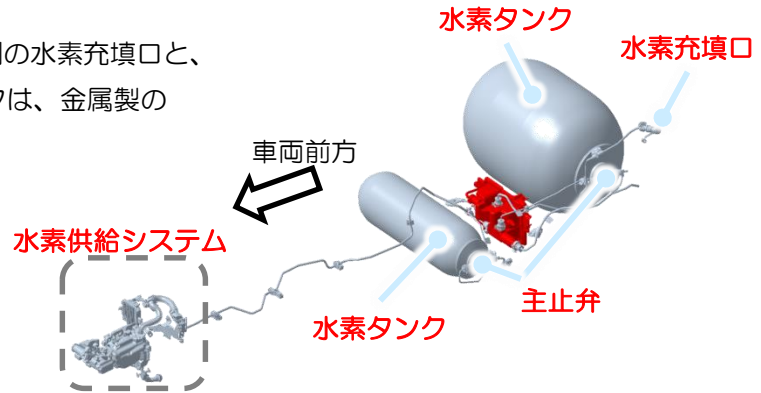
■水素タンク

CLARITY FUEL CELLの燃料である圧縮水素ガスは、最大70MPaの水素タンクに貯蔵されています。水素タンクは、不燃性の材質で出来ており、フロア下に2本搭載されています。



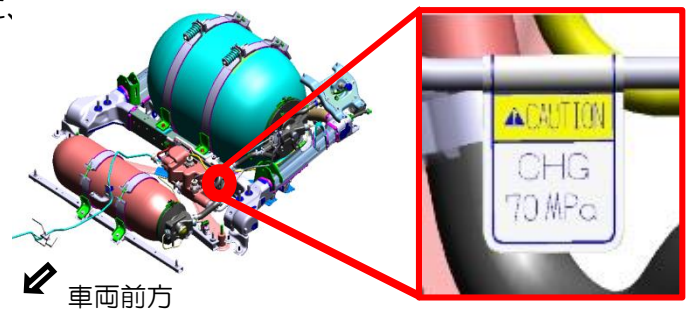
■水素充填口/水素配管

CLARITY FUEL CELLの車両左側の水素充填口と、2本の水素タンク、燃料電池スタックは、金属製の水素配管で接続されています。



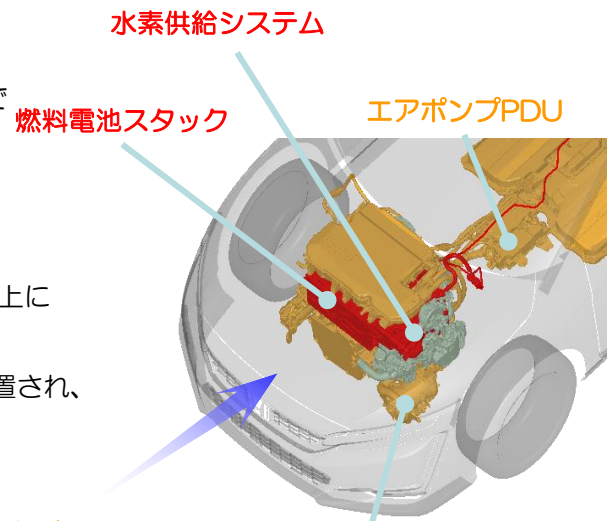
■水素識別ラベル

CLARITY FUEL CELLは、高圧部の水素配管に、識別の為にラベルを貼ってあります。



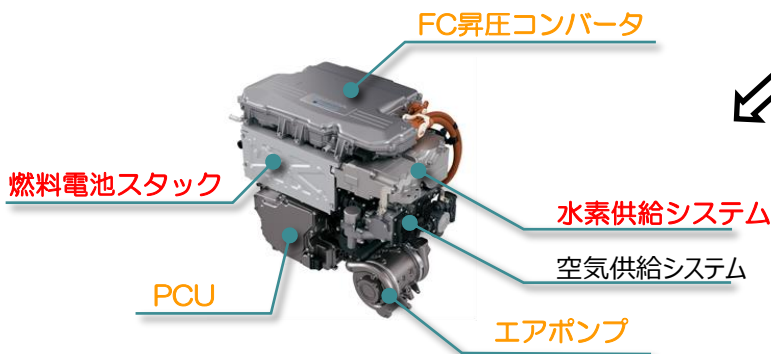
■水素供給システム

CLARITY FUEL CELLは、燃料電池スタックに水素を供給・循環するための水素供給システムを燃料電池スタックの左側に配置し、金属製のカバーで覆っています。



■エアポンプ/エアポンプPDU

CLARITY FUEL CELLは、フロントサブフレーム上にエアポンプを配置しています。
エアポンプPDUは、フロア下のトンネル部前方に配置され、エアポンプを駆動するモータの電力をコントロールしています。



■水素安全の基本思想

CLARITY FUEL CELLは、水素に対する安全思想に基づいて設計し、車両の安全性を確保しています。

- 漏らさない

水素を保有する部品は、通常使用時から衝突時（法規衝突モード）まで漏れないように設計・確認しています。

さらに水素を保有する部品はカバーの中に収納し、様々な環境ストレスから部品を保護しています。

- 漏れたら止める

車両使用中に万一水素が漏れた場合は、水素センサで検知して主止弁を遮断することで、水素濃度上昇を抑えます。

衝突時には衝突Gを検知して水素供給を止めるシステムを備えており、万一水素を保有する部品が破損しても漏れる水素の量を最小限にしています。

- 漏れた水素は排出する

漏れた水素は火種から隔離しながら車両外へ安全に排出する設計をしています。

■水素安全システム

CLARITY FUEL CELLは、燃料電池システムが起動状態のときに水素が供給されており、衝突時や万一の水素漏れの場合には水素の供給を遮断するシステムを備えています。

- 水素の供給

パワースイッチを押すと水素が供給され、燃料電池システムが起動します。

- 水素漏れ検知遮断システム

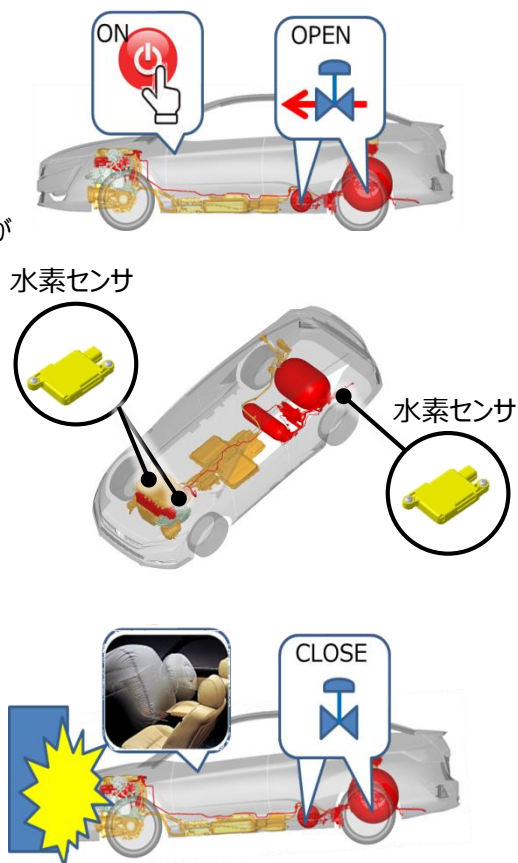
水素センサで水素漏れを監視し、水素漏れを検知すると水素の供給を遮断します。

水素センサは水素保有区画内に設置しています。

（モータールーム内に2か所、充填リッド内に1か所）

- 衝突遮断システム

車両にエアバッグの作動に至るほどの強い衝撃が加わると水素の供給を遮断するシステムを備えています。



■PCU

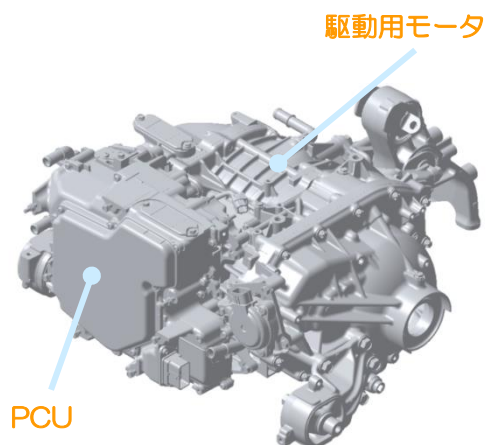
CLARITY FUEL CELLは、車両前方のモータールーム内下部に駆動用モータとPCUを搭載しています。

駆動用モータは燃料電池スタックおよびリチウムイオンバッテリーから供給される電力により、最大電圧500Vで駆動されます。

PCUは、駆動用モータの車両前方側に固定され、インバータ機能とリチウムイオンバッテリーのコンバータ機能を一体化した高電圧部品です。

駆動用モータ、PCU共に筐体にて外部からの水浸入を防止しています。

また、高電圧部位は、いずれも筐体内に絶縁して、内蔵していますので、通常、筐体表面に触れても、感電することはありません。



■空調システム

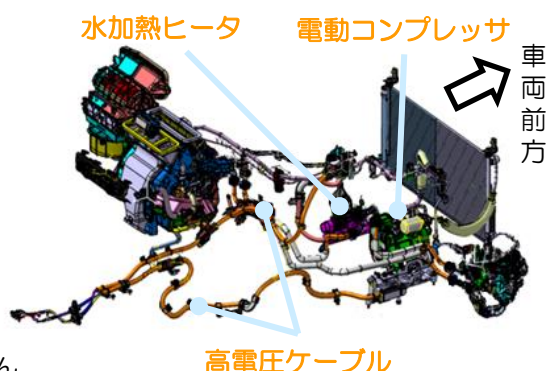
CLARITY FUEL CELLは、高電圧電源で作動する空調システムを搭載しています。

電動コンプレッサ、水加熱ヒータが高電圧で作動します。

各高電圧部品には、リチウムイオンバッテリーから高電圧ケーブルを介して、電力供給されています。

電動コンプレッサ、水加熱ヒータは車両前方のモータールーム内に搭載しています。

いずれも、筐体表面に触れても、感電することはありません。



■FC昇圧コンバータ

CLARITY FUEL CELLは、車両前方のモータールーム内最上部にFC昇圧コンバータを搭載しています。

FC昇圧コンバータは燃料電池スタックの出力電圧を最大500Vに昇圧するコンバータ機能、および燃料電池スタックの電流遮断スイッチを筐体内に内蔵しています。

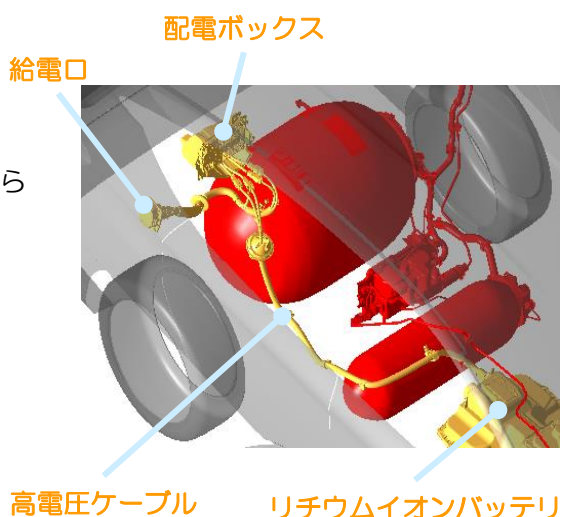
FC昇圧コンバータは筐体にて外部からの水浸入を防止しています。

また、高電圧部位は、筐体内に絶縁して内蔵していますので、通常、筐体表面に触れても、感電することはありません。



■外部給電システム(装備車のみ)

CLARITY FUEL CELLは、電力を車両外部に供給することができる外部給電システムを搭載しています。外部給電の電力は、フロア下のリチウムイオン バッテリーからトランクルーム内の配電ボックスを経由して、車両後方の右側フェンダ部に設けた外部給電リッド内の給電口に供給されます。配電ボックス内には、電流遮断スイッチを内蔵しています。外部給電システムの高電圧部位は、筐体内に絶縁して、内蔵していますので、通常、筐体表面に触れても、感電することはありません。



車両前方
↓



■リチウムイオン バッテリー液漏れ時の処置

CLARITY FUEL CELLのリチウムイオン バッテリーの電解液には揮発性有機溶剤が使用されています。

また、無色透明のため見ただけでは判別できません。

リチウムイオン バッテリー付近に液漏れが確認され電解液が疑われる場合は、耐溶剤用保護具

〔ガスマスク（有機ガス用）、ゴム手袋（耐薬品用）〕を必ず着用し、乾燥したウエス等で漏れた液を拭き取ってください。使用したウエス等は密閉できる袋や容器に格納し、産業廃棄物として適切に処理してください。

⚠ 警告

- ・リチウムイオン バッテリーの電解液は人体に有害なため、目に入ったり皮膚に付着すると失明や傷害を受けるおそれがあります。万一、電解液が目に入ったり皮膚に付着した場合は直ちに多量の水で洗浄し、専門医の診断を受けてください。

3. レスキュー作業時の注意

■処置概要

CLARITY FUEL CELLは高圧水素タンクとリチウムイオン バッテリーを搭載しています。
燃料電池車固有の注意として高圧ガスと高電圧に対する注意と処置が必要になります。
以下の各項目をよく読み、実際の作業時には状況に応じた対応をしてください。

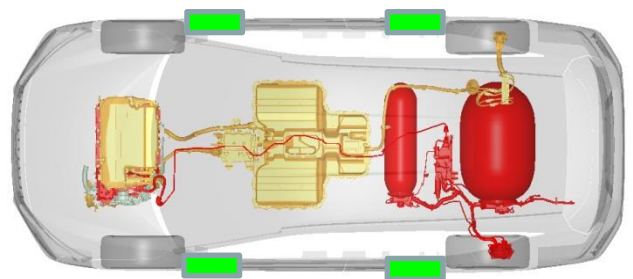
■補機類の事前処理

必要に応じて、パワー ウインドやパワー シート、ドア ロック、トランク等の操作を行ってください。

【重要】12Vバッテリーの接続を切り離すと、上記電装関係の操作が不可能になります。

■車両の固定および安定を図る際は

通常の車両と同様に、パーキング ブレーキをかけて
輪止めをしてください。さらに安定させる場合は
車両の下に木片等の支持物を置いてタイヤの空気を
抜くか、救出用リフト エアバッグ装置などを
使用して車両を安定させてください。



上から見た図

■ ジャッキアップポイント

赤色部：水素保有部

橙色部：高電圧保有部

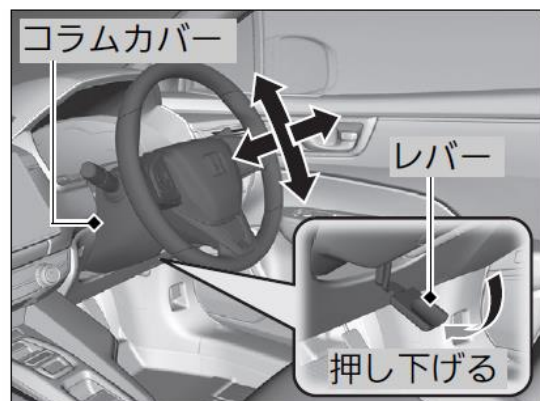
⚠ 警告

支持物やリフト エアバッグ装置はフロア下の高電圧部分や水素タンク、水素配管、排気系を避けて設置してください。

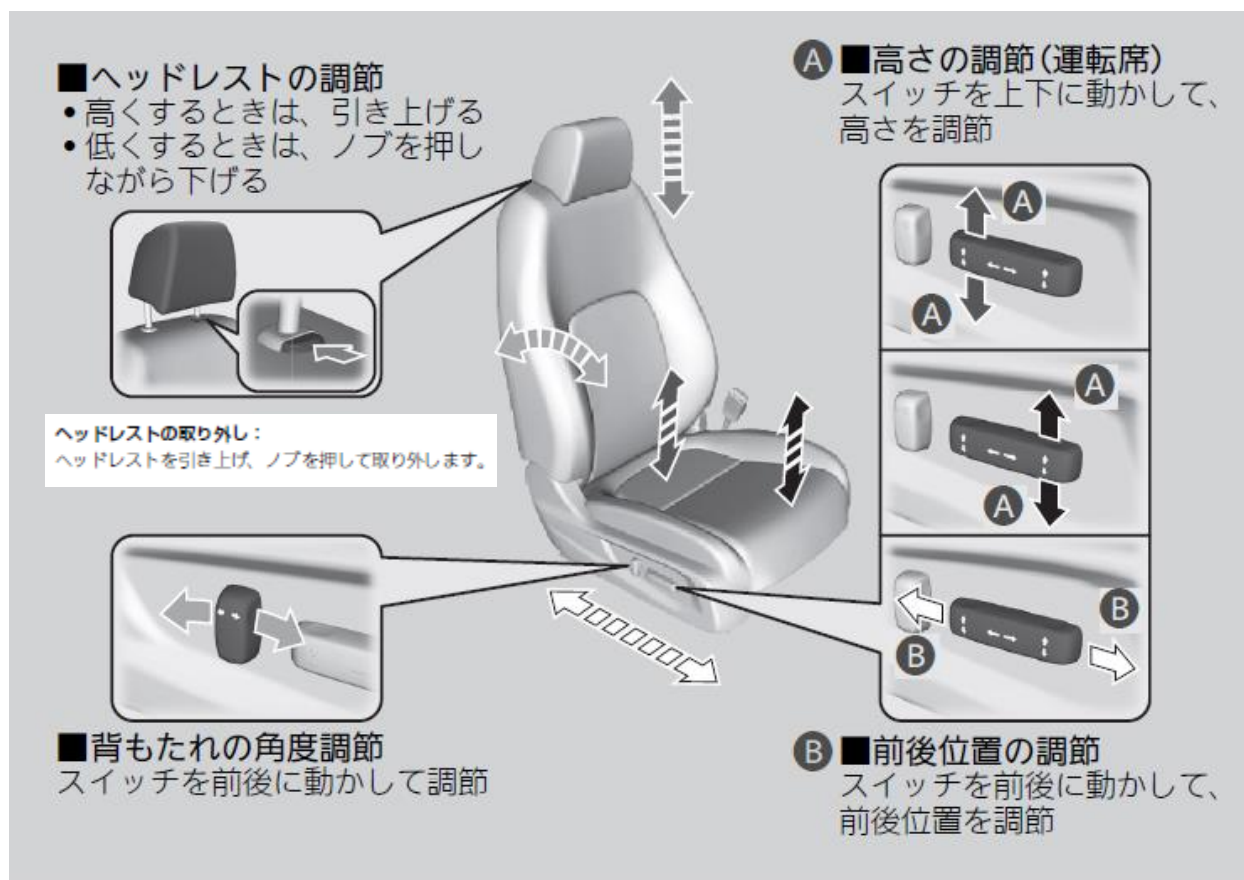
高電圧ケーブルの破損や、水素配管の破損、熱による火災、リフト エアバッグの破損等により重大な障害や死亡に至るおそれがあります。

■乗員を車室内から救助する際は

前席に座っている乗員救助のためにスペースを確保する必要がある場合は、ハンドルの位置を調整してください。



同様に、スペース確保の必要に応じてフロント シートの位置を調整してください。



■火災時の注意と処置

車両火災時には、バッテリーおよび、水素タンクの冷却を兼ねて大量の放水により消火してください。大量の放水が困難な場合はABC消火器（油火災・電気火災の両方に対応するもの）により消火してください。

火災時は電気配線の絶縁被覆が燃えることにより回路がショートし、パワー系のヒューズが溶断して高電圧が遮断されます。また、大量の放水による漏電によっても回路がショートし、パワー系のヒューズやリチウムイオン バッテリーのメイン ヒューズが溶断し、高電圧が遮断されます。

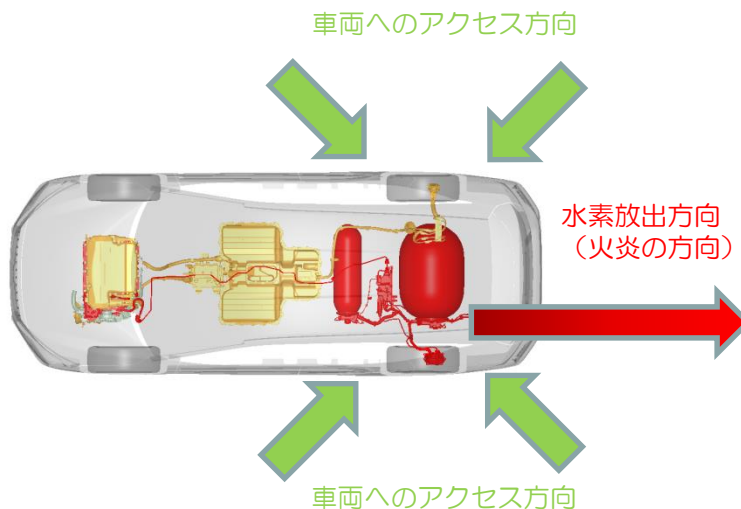
火災部位により、ヒューズが溶断しない、放水による漏電が起きないなど、状況によっては高電圧が遮断されない場合もありますので、消火後は16ページの「高電圧システムの遮断方法」に従って高電圧を遮断してください。

また、CLARITY FUEL CELLは可燃性で高圧縮の水素ガスが搭載されています。

火災時にタンク内の温度・圧力が異常上昇すると、タンクに装備した溶栓弁が開き水素を車両後方へ放出します。消火時には放出した水素への引火に備えて、車両から離れて放水し、車両に近づく際は45°の角度からアクセスしてください。放出した水素に引火した際は、水素を放出しきって火炎の勢いが収まるまで消火せず、周囲への延焼を防ぐための冷却放水を行ってください。

水素放出中に火炎を消火すると、未燃焼の水素が滞留し爆発するおそれがあります。

一般的には水素の火炎は無色で輻射熱も少ないため炎を発見しづらいという特徴がありますが、車両火災時には周囲の可燃物と共に燃焼するため炎に色がついて発見が容易になります。



■水没時の注意と処置

車両水没時、水の浸入による漏電で回路がショートすることにより、パワー系のヒューズやリチウムイオン バッテリーのメイン ヒューズが溶断して高電圧が遮断されます。

水深が浅い場合や、水の浸入による漏電が起きない部位の水没など、水没の状況によっては高電圧が遮断されない場合もありますので、可能な限り14ページの「高電圧システムの遮断方法」に従って高電圧を遮断してください。

■リチウムイオン バッテリ破損時の注意と処置

衝突などでリチウムイオン バッテリが破損していた場合には、以下の警告を守ってください。

万一、液漏れが疑われる場合は、10ページの「リチウムイオン バッテリ液漏れ時の処置」の項に従ってください。

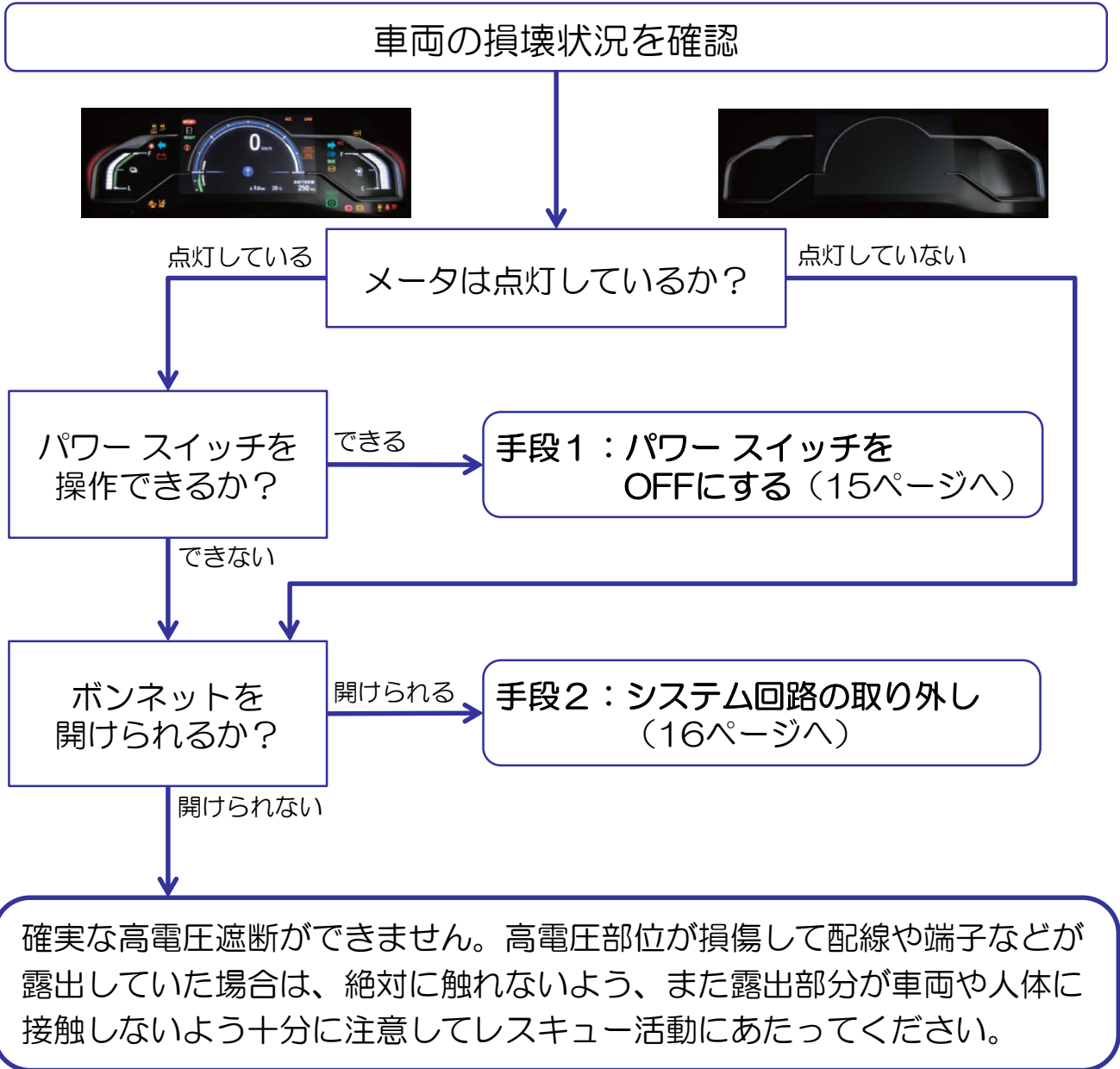
警 告

- オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧カバーが破損し配線や端子などが露出していた場合、それらの露出部分には絶対に触れないでください。また、露出した配線や端子が高電圧部分かどうか不明な場合も、触れないでください。不用意に触れると、重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- やむを得ず高電圧ケーブルや高電圧部品の露出部分に触れる場合、または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕を着用してください。

■高電圧システムの遮断方法（以下フローの表現改訂）

車両の損傷状況に応じて、高電圧を遮断してください。以下に紹介するどの方法でも高電圧は遮断できます。高電圧の遮断後は通常のレスキュー活動が可能です。

下図の流れに従って、最も容易な方法を選択してください。



⚠ 警 告

- ・ オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧カバーが破損し配線や端子などが露出していた場合、それらの露出部分には絶対に触れないでください。また、露出した配線や端子が高電圧部分かどうか不明な場合も、触れないでください。不用意に触れると、重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- ・ やむを得ず高電圧ケーブルや高電圧部品の露出部分に触れる場合、または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕を着用してください。

手段1：パワー スイッチをOFFにする

◆車両が損傷していても、パワー スイッチ操作ができる場合

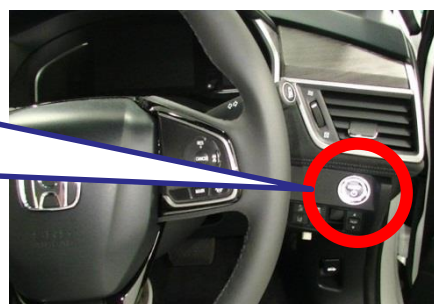
パワー スイッチをOFFにしてください

- ①パーキング スイッチを押してください。
- ②パワー スイッチを2秒以上長押ししてOFFします。

パーキング スイッチ



2秒以上長押し



⚠ 注意

メータ内の表示が消灯状態でパワー スイッチを操作するとシステムが起動する場合があります。

メータ内の表示が全て消灯していることを確認してください

※意図しない再始動を防ぐためにも、キーレスリモコンを車から最低でも6メートル離してください。



⚠ 注意

パワー スイッチOFF後も発電が継続する場合があります。
この場合、マルチインフォメーションメータに
『FC（燃料電池）システム停止処理中です処理完了後自動で停止します』
と表示されます。
この間はシステムが停止できていないので、表示が消えるのをお待ちください。

システム停止後も、コンデンサ等に蓄えられた電荷の放電に約5分間を要します。
高電圧遮断後は、回路のショート等に十分注意し作業にあたってください。

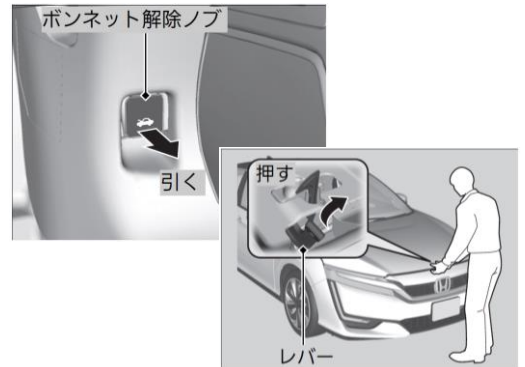
レスキュー活動を開始してください

手段2：システム回路の取り外し

◆パワー スイッチ操作ができないが、ボンネットは開けられる場合

ボンネットを開けてください

運転席足元にあるボンネット解除ノブを手前に引き、浮き上がったボンネット前部中央にあるレバーを押してロック機構を解除し、ボンネットを引き上げます。
上記手順が実行できない場合は、バールなどでボンネットをこじ開けてください。
可能ならば、開いたボンネットは備え付けのステーで固定してください。



12Vバッテリーの接続を外してください

12Vバッテリーから、マイナス（－）端子側のケーブルを外します。
※高電圧回路の電源を遮断するためにはバッテリーとヒューズボックス内のメインヒューズの電氣的接続を切断する必要があります。
12Vバッテリーのプラス（＋）およびマイナス（－）端子からケーブルを外しただけではシステムは停止できません。

プラス（＋）端子 ヒューズボックス



12Vバッテリー マイナス（－）端子

ヒューズボックス内部のヒューズを取り外してください

ヒューズボックスのカバーを外し、右図のメインヒューズを外して（または切断して）システムを停止してください。



⚠ 注意

システム停止後も、コンデンサ等に蓄えられた電荷の放電に約5分間を要します。
高電圧遮断後は、回路のショート等に十分注意し作業にあたってください。

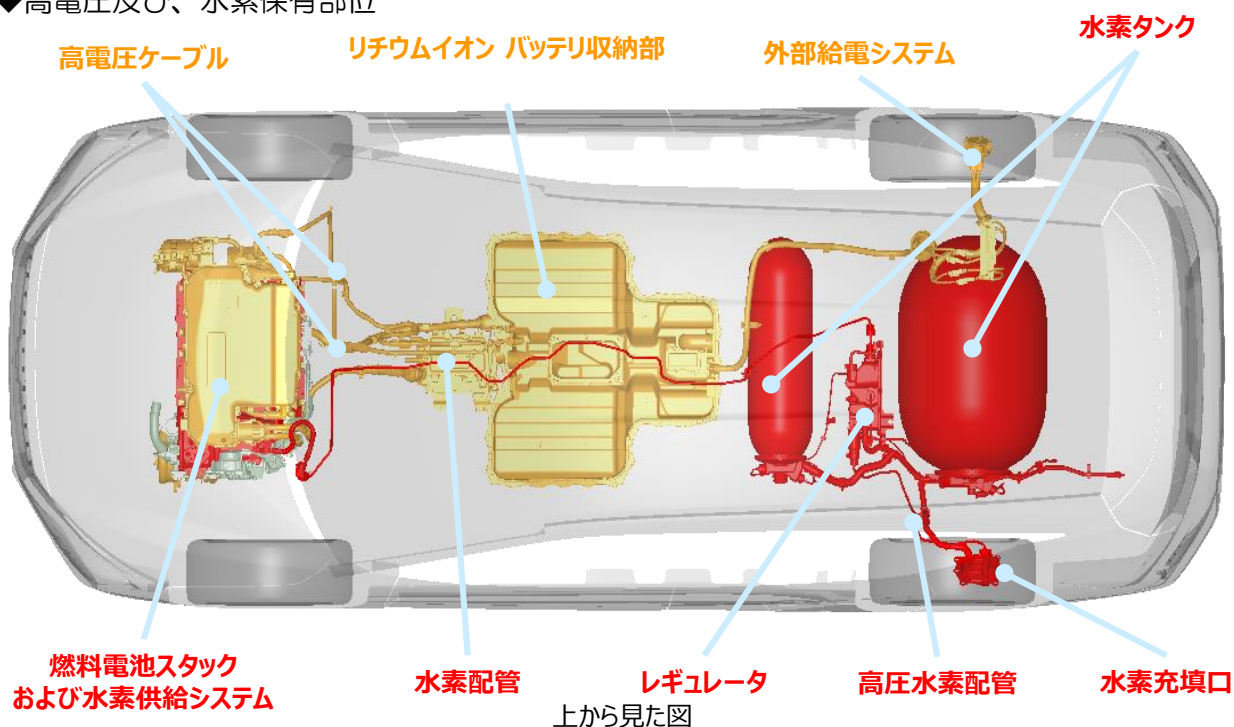
レスキュー活動を開始してください

■車両切断時の注意と処置

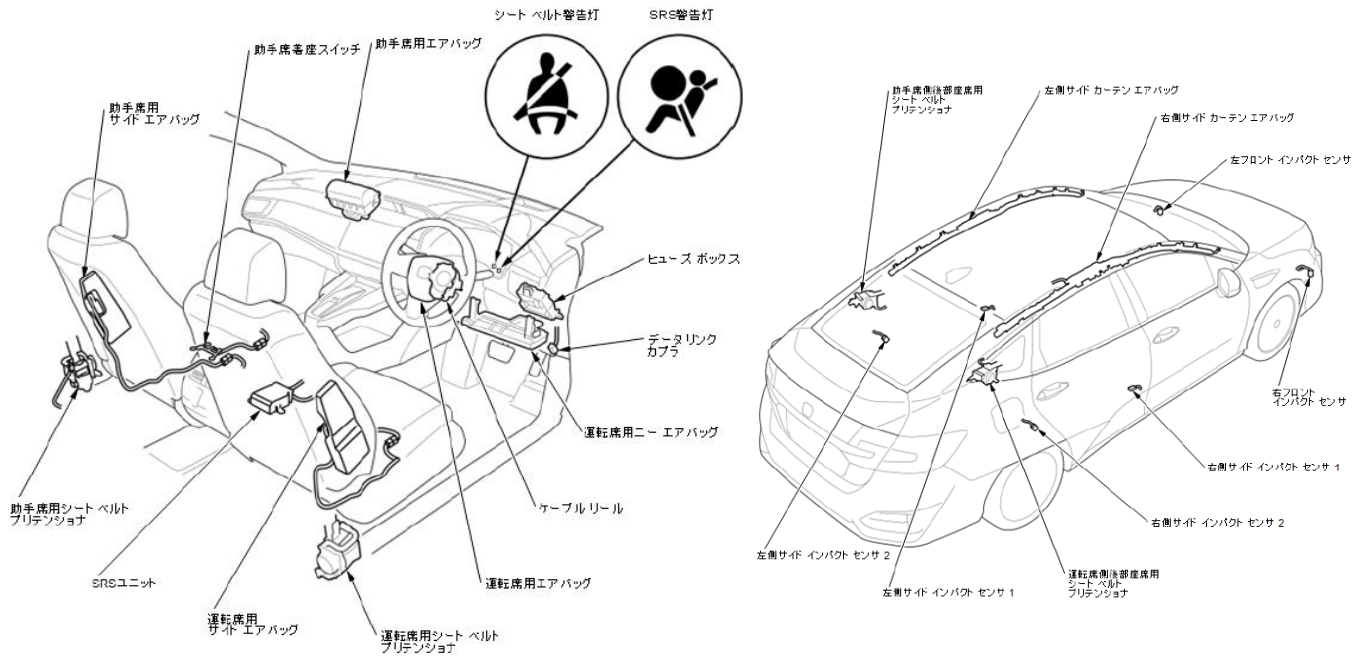
⚠ 警告

- ・ オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧カバーが破損し配線や端子などが露出していた場合、それらの露出部分には絶対に触れないでください。また、露出した配線や端子が高電圧部分かどうか不明な場合も、触れないでください。不用意に触れると、重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- ・ やむを得ず高電圧ケーブルや高電圧部品の露出部分に触れる場合、または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕を着用してください。
- ・ 高電圧部位は切断しないでください。高電圧遮断後であっても切断により高電圧部分が露出すると、重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- ・ 水素保有部位は切断しないでください。**火災や爆発による重度の火傷や死亡に至るおそれがあります。**
- ・ 未展開のエアバッグや未作動のシート ベルト プリテンショナは切断しないでください。エアバッグやシート ベルト プリテンショナには高圧ガス発生装置が装備されているため、切断すると重大な障害や死亡に至るおそれがあります。
- ・ エアバッグやセンサは切断しないでください。切断による配線のショートや衝撃等により、不意にエアバッグが展開すると、レスキュー作業時の2次災害を招くおそれがあります。ただし、全てのエアバッグが展開済であれば問題ありません。
- ・ エアバッグ システムは、パワー スイッチOFFまたは12Vバッテリーの接続を外してから、3分間はシステムが機能しているため、必ず3分以上の経過を確認してから切断作業を行ってください。ただし、全てのエアバッグが展開済であれば問題ありません。
- ・ 火花による引火等により重大な傷害をおよぼすおそれがあるため、油圧カッターなど火花が飛ばない機器を使用して切断してください。

◆高電圧及び、水素保有部位



◆エアバッグ関連部品の位置

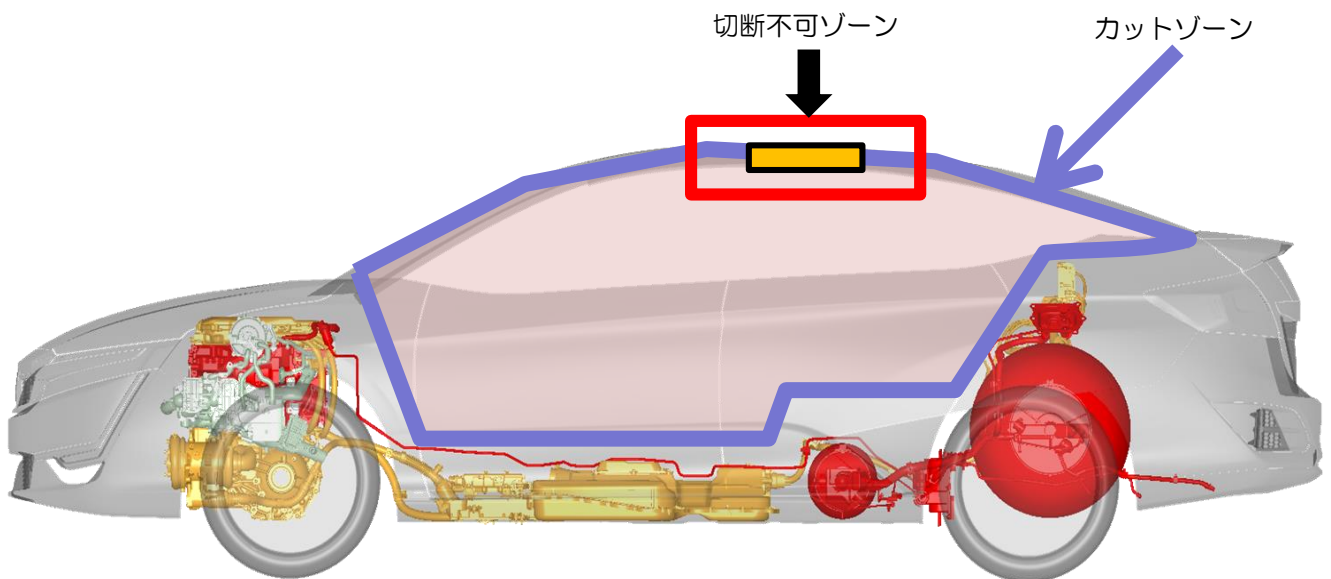


◆カットゾーン（切断可能領域）

乗員救助のために車体を切断したり、油圧カッターなどを使う必要がある場合は、下図のカットゾーンの範囲内で行ってください。

車体側面にあるサイドカーテンエアバッグの高圧ガス発生装置部位付近（下図の切断不可ゾーン）は、切断しないよう、特に注意してください。

ただし、サイド カーテン エアバッグが作動済であれば問題ありません。



4. 事故車運搬要領

⚠ 警告

- ・オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧カバーが破損し配線や端子などが露出していた場合、それらの露出部分には絶対に触れないでください。重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- ・露出した配線や端子が高電圧部位かどうか不明な場合も、触れないでください。
- ・やむを得ず高電圧ケーブルや高電圧部位の露出部に触れる場合または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕を着用してください。

■車両データ

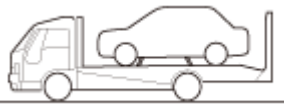
項目 車種	全長 (mm)	全幅 (mm)	全高 (mm)	ホイール ベース (mm)	車両重量 (kg)
CLARITY FUEL CELL	4,915	1,875	1,480	2,750	1,870
CLARITY FUEL CELL 外部給電仕様車					1,890

■車両運搬要領

運搬は次の点を守って行ってください。

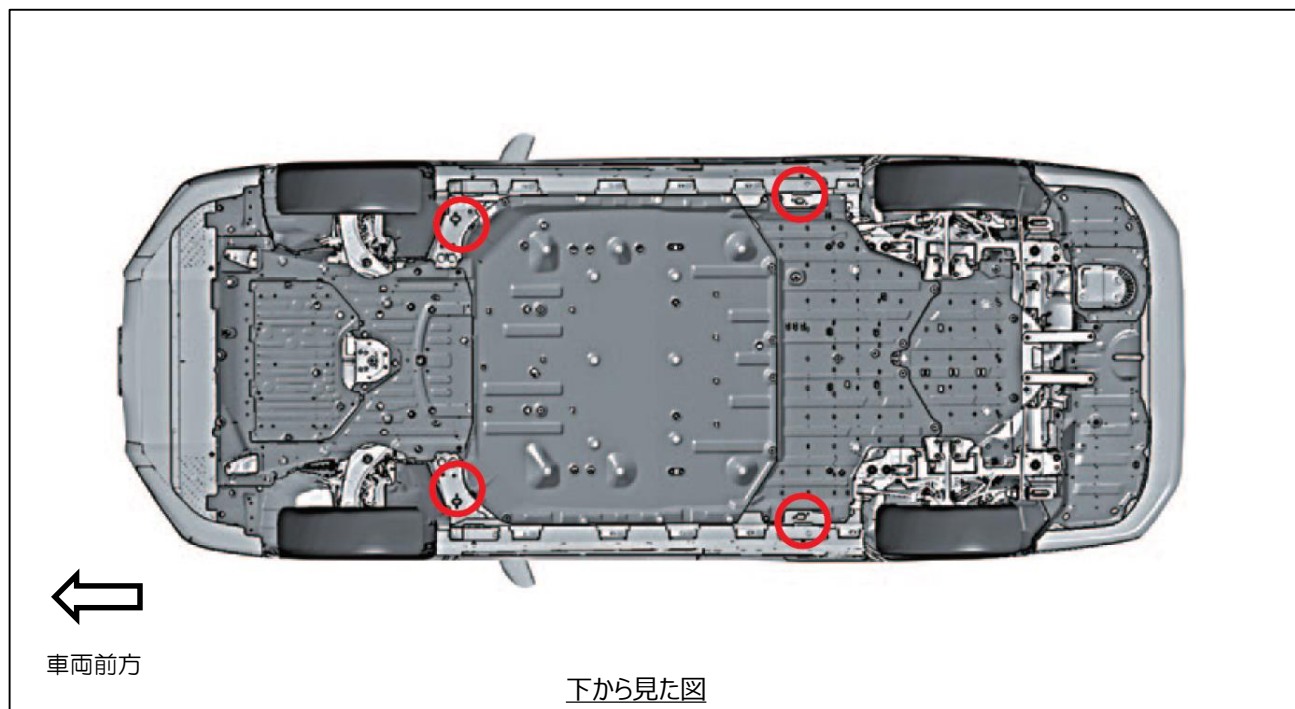
- 運搬は四輪を持ち上げて運搬すること。
- 車両を持ち上げるためにバンパを使用しないこと。
- 車両に損傷を与える運搬は行わないこと。
- 道路交通法に従って運搬すること。

運搬は下表に従って行ってください。

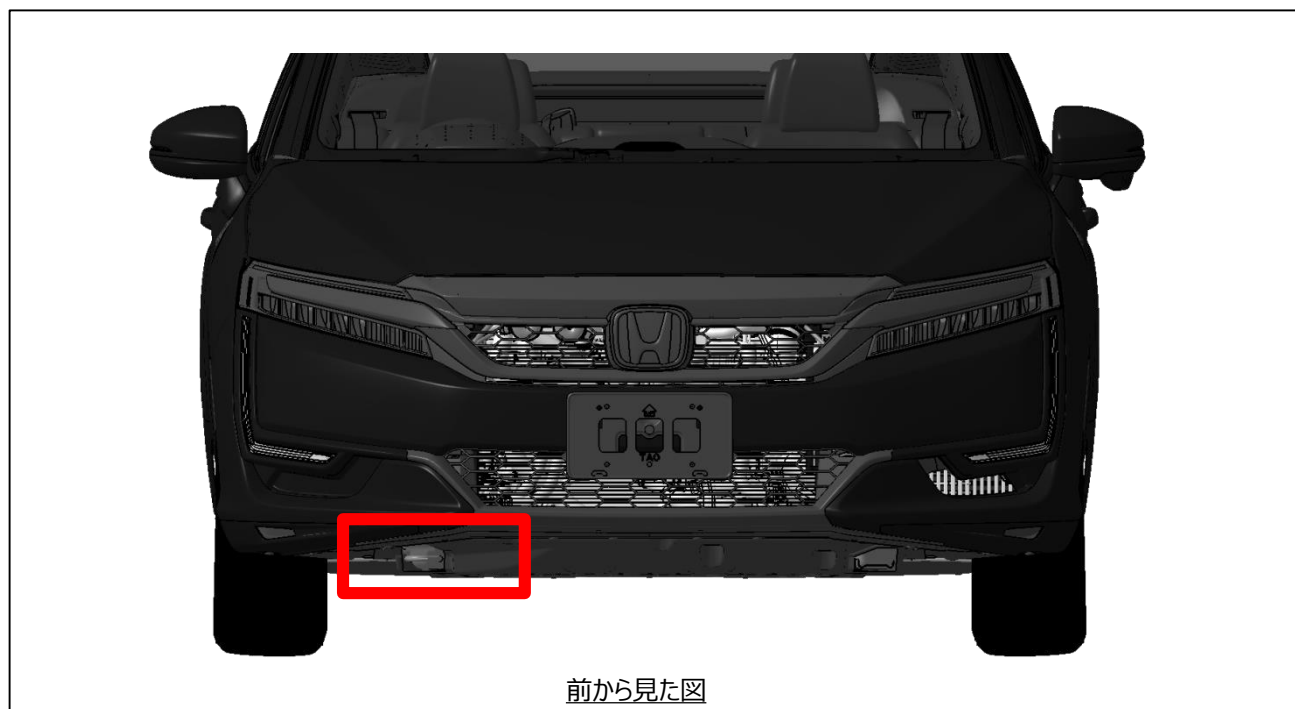
運搬方法	シフト位置	条件または注意事項
・4輪を持ち上げての運搬 	Pポジション	・車両が飛び出さないように必ず車両を固定すること。 ・パーキング ブレーキをかけること。

【参考】12Vバッテリーが上がっている、または接続を切り離している場合、シフトポジションの切替えおよびパーキングブレーキの解除ができない場合があります。

■タイダウン スロットの位置



■牽引フックの位置



積載車へ引き上げる際は、こちらのフックを使用してください。

※積載目的以外での牽引は避けてください。駆動モータに損傷を与えるおそれがあります。

触るな！

高压ガス

作業中

高压ガス

作業中

触るな！

担当

高電圧作業中
触るな！

高電圧作業中
触るな！

担当

